

SSH 台湾海外研修 英語プレゼンテーション講習会

令和3年度の台湾海外研修は現地に行きに行くことはできなくなりましたが、台湾の高校生と様々な活動をオンラインで実施しています。これからお互いに課題研究の英語の発表動画を作成し、視聴した後、それぞれの内容について3月にオンラインで意見交換をする予定です。その準備の一環として、1月12日(水)の放課後、研修参加者24名が、4グループに分かれ、英語でポスター発表と口頭発表を行い、東北大学大学院医学系研究科と理学研究科博士課程に在籍する4人の留学生の方に指導していただきました。指導の後は、出身国パキスタンの話や仙台での経験などの話で各班盛り上がっていました。

指導・助言いただいたこと

- 難しい単語はなるべく簡単な単語に置き換えるか、簡単な言葉で説明を加える。自信を持って発表を行う。
- 発表の最初には、誰がどの部分を発表するかわかるよう軽く自己紹介する。仮説と結論がしっかり結ばれていない。英語での質問に答えようとする姿勢は良い。
- 発表対象を考えた研究発表をするべきである。発表を突然始めるのではなく、自分達はどんなことについて研究し、それを誰が行ったかを簡単に説明した方がよい。
- 聴衆ともっとアイコンタクトを取り、せっかく聴衆がいるのだから、問い掛けなどを用いて、一方通行の発表にならないようにした方がよい。自分達の研究内容を一番知っているのは自分達だと自信を持つ。
- 私たちの班は結果が仮説と異なり、星の瞬きと気象条件に相関がないと結論づけたが、「相関がない」というものも立派な研究の一つである。
- ゆっくり話す方がよい。聞き取りにくいと発表の意味がない。
- 考察は Consideration ではなく Discussion とすべきである。
- もう少し身振り手振りを使うと良い。



感想

- 研究の内容や事実について質問されることは少なく、研究に対する私たち自身の意見や考えについて質問されることが多かった。研究についてもっと深く理解して、自分の意見を持つことが大切だと感じた。
- 外国の方の前でプレゼンするのは緊張しましたが、目が合ったり、相づちを打ってくれたりした時には、伝わっていることを実感し、コミュニケーションの喜びを再認識することができました。
- アリさんとの会話の中では大学の研究内容、パキスタンでの生活などについて話があり、とても貴重な経験になった。海外の人との交流は改めて楽しいと思った。
- 丸暗記ではなく、その場で理解しながら相手に伝えることの重要性・必要性を強く感じた。

令和3年度東北地区サイエンスコミュニティ研究校発表会

1月22日（土）に東北地区サイエンスコミュニティ研究校発表会がオンラインで開催され、東北地区6県のSSH指定校等(21校)で自然科学の課題研究に取り組んでいる高校生が研究成果を発表しました。本校からは物理ゼミ(物理部)の4人が「宇宙線到来頻度と気象要素(大気圧・気温・絶対湿度)の相関関係」と題した発表をしました。東北大学(加速キッチン)にある”Cosmic Hunter”という宇宙線観測器を利用して、2021年の6月から8月まで約2ヶ月間宇宙線の観測を行い、宇宙線到来頻度と大気圧・気温・絶対湿度の相関図を作成し、各々の相関係数を求めました。到来頻度と気温との間には「強い負の相関」が、絶対湿度との間には「弱い負の相関」があり、大気圧との相関は見られないことがわかりました。



【発表者の感想】

- これまでの発表の時と比べものにならないほど緊張したものの、7分間の制限ぴったりで発表が終えられ、一番良い研究発表だったのではないかと思います。約一年前から東北大学へ通って研究の方向性や結果に対する考察を練ってきた今までの成果の全てを今回のような大きな場で発表することができ達成感でいっぱいである。宇宙線という壮大なテーマを取り上げたこともあって、多くの矛盾や研究限度と向き合ってきた。その度に、今ある知識から解決策や新たな説を導き出し、視野の広がりや発想の柔軟性が増していくのを班メンバー間の話し合いの中で感じた。SSHを通して有意義な時間を過ごすことができた。
- 我々の班では、研究の最終到達点のみをまとめて発表していたが、他校では、その過程も示しており、なぜその研究手法に至ったかを明確に理解できるようにしていた。また、複雑な統計処理を臆することなく施して、結果の信憑性を高めていた。ビジネスや実用化に繋がると言われるほどの研究や、内容も極めて濃い感嘆する発表もあった。我が班の研究内容にはまだ多くの進歩の余地があると感じた。



令和3年度みやぎのこども未来博～学びの術～

公民ゼミポスター「色覚異常に配慮した社会へ」↓

「みやぎのこども未来博」は、エントリーした小・中学生及び高校生が、様々な分野の研究や探究活動を成果発表動画を作成し、1月4日～25日にそれを互いに視聴し、コメントする形式の発表会です。本校からは4つの班がエントリーしました。

【発表者の感想】

- 私たちが研究した暗記方法は、先行研究が沢山ある中で、他の研究と異なったものにするために、ハンガリー語を使用し、暗記の本質を捉えられるように取り組んだ。また、発表するまでのプロセスを最も重んじ、よりクオリティの高いものに仕上げることを意識し、他者の意見も取り入れ改善に努めることができた。(英語ゼミ「効率のよい単語の記憶法」)
- 自分達が1年かけて行ってきた研究を、7分という限られた時間に納めて発表する難しさを感じた。理解してもらうために、どのような言葉や表現を使えばよいのか、どのようなポスターだと見やすいのか、などを考えるのが大変だった。(化学ゼミ「リモネンによる発表スチロールの溶解」)
- ポスターの文章量が多いグループよりも、少ないグループの方が内容が理解しやすかったので、文章は最小限にすべきだと感じました。また、研究内容を踏まえた具体的な提案をしているグループがあり、研究の実用性を示していたことが印象的でした。(保体ゼミ「思い込みで足は速くなる??」)

